令和6年度機能評価結果

地域がん診療連携拠点病院 飯田市立病院

<良好な事項>

- 全体について
トータルでバランスよくがんの診療体制が整備されている。
- がん診療・緩和ケアセンターについて
フロアが広く、施設・情報が集約されており、患者に対しワンストップで対応できる体制が整備されている。
- 放射線治療について
がん放射線療法看護認定看護師が2名配置されており、また、南信地域で唯一、小線源治療が実施可能であるなど、放射線治療体制が充実している。
- 化学療法について
抗がん剤投与に向けた検査オーダーの権限が薬剤師に付与されており、医師が見逃した場合も薬剤師がチェックし、検査オーダーを行える体制が整備されている点が素晴らしい。
- 患者支援について
ハローワークと連携した就労支援等、細かな点まで看護師等が対応しており、また、初診時から患者の話を聞き、きめ細やかな対応が行われている。

<指定要件に係る事項>

なし

<指定要件を超えて検討を依頼する事項>

- 院内がん登録について
現在、がん登録実務者1名で対応されているが、担当者の負担軽減や今後のダブルチェック体制、人材育成等を見据え、複数名の配置を検討いただきたい。
- 放射線治療について
現在、診療放射線技師は3名配置されているが、定位放射線治療も始まっており、将来を見据えると人員が不足してしまう可能性があるため、更なる高精度治療の実施に向け、配置人員の増員を検討いただきたい。
- 化学療法について
 - ・外来化学療法治療室の安全面等を考慮し、薬物療法の実施時間中は、同治療室へ医師が常駐する体制を整備する等、緊急時の安全管理体制について検討いただきたい。
 - ・PBPM（プロトコールに基づく薬物治療管理）について、薬剤師への検査オーダー権限の付与を全員一律とするのではなく、一定の資格・スキルを有する者に限定する等の仕組みづくりを検討いただきたい。
- 診療報酬加算について
薬剤師に係る加算を含め、算定されていない加算が見受けられた。加算の取得は、患者へのより良い医療サービスの提供にも繋がるため、薬剤師やがんに関する各種加算の取得に向けた体制整備を検討いただきたい。
- 患者への告知について
患者に対するがんの告知については、可能な限り看護師が同席できるよう、同席率の向上に向けた更なる体制整備に努めていただきたい。